

人権啓発センター だより

平成27年6月

No.18

(公財) 高知県人権啓発センター



「考える村」

5月の連休の最終日、およそ30年ぶりに芸西村の「考える村」を再訪しました。

手結のお餅屋さんの手前を北へ入り、新緑の木々のトンネルの道を進んで行くと、うぐいすの鳴き声も聞こえてきました。

「考える村」の創設者は、桂浜の坂本龍馬像建設リーダーであった故入交好保氏です。30年前には気にもとめなかった石碑を前に、自分の人生を振り返り、今後の仕事への活力があらためてわいてきました。その石碑には『自然の中に 人間の 生き方を 考える』と刻まれています。「考える村」の憲章です。

考堂の広い木のデッキから、桂浜の龍馬像のように眼下に太平洋を望むことができました。

広い空の下、野鳥のさえずりと風の音を聞きながら、ゆったりと流れる時間を楽しみました。

時間と仕事におわれ、心に余裕がなくなった時こそ、自然の中に身をおくことが大切だと思いました。

(研修啓発課 山本)

人権あれこれ

「愛着障害」と「四つのゼロ」

「最近、犯行の方法や動機が大人には理解しがたい、と思われる少年犯罪が続いている」そんな記事が高知新聞(5/10)に掲載されていた。記事は18年前、当時中学3年生の少年が2人の小学生の命を奪った事件(「神戸連続児童殺傷事件」)で審判を担当した井垣康弘・元判事のコメントを通して事件を起こす子どもの内面や背景を探る、といった内容であった。神戸の事件は、その後の少年法の改正(厳罰化)や被害者救済に大きな影響を与えることとなるが、こうした少年犯罪の要因の1つとして、近年、精神医学の分野で「愛着障害」という用語が注目されている。これは人間に対する基本的な信頼を獲得すべき時期に、それが形成されていないことで引き起こされる障害であり、この「基本的な信頼」は自他を愛し、尊重する基礎になり、

神戸の事件ではそれが形成されていなかった可能性があった、とのことである。

また、記事の最後では「特異な事件と一般の非行を区別する見方もあるが、非行に至る過程は共通している」という前置きをし、次のように書かれていた。

「子どもを非行に走らせるのは、①居場所がない②自尊感情がない③人生の目標がない④他者から必要とされていない、という『四つのゼロ』がそろったとき。そのとき少年は自分の命も他人の命もおろそかにする。子ども達を『四つのゼロ』から救い出すのが社会全体の責任です」

未来の社会を託す子ども達に私たち大人がどう関わっていけばいいのか、様々な立場から考えさせられる記事であった。

(研修講師 中西)

じんけんライブラリー

一押し本

「橋はかかる」

著／村崎太郎＋栗原美和子 ポプラ社（1,300円＋税）

被差別部落出身であることを公表した村崎太郎。ごく一般的な家庭に育った栗原美和子。悪戦苦闘の3年間、少しずつみえてきた希望の橋。


村崎太郎は17歳で初代次郎とコンビを結成し、日本に途絶えた猿まわしを復活、次郎の“反省”でおなじみ。

栗原は数々のヒットドラマを手掛けたほか、在日韓国人と日本人の結婚をテーマにした『東京湾岸』等、社会問題に対する深い作品にも定評がある。

差別の無い世の中とは、を考えさせてくれる一冊です。

（企画啓発課 佐伯）

新しく購入した本を紹介します

タイトル、著者、出版社	内 容
『奇跡がくれた宝物ー[いのちの授業]』 小沢弘 編著 クリエイツかもがわ	小児科医師である著者が、重度の障害のある子どもたちやその家族とのかかわりのなかで、母校の中学校で語った「いのち」の授業の記録です。
『路地の教室ー部落差別を考える』 上原義広 著 筑摩書房（ちくまプリマー新書）	「路地（同和地区、被差別部落）って何？」「差別なんて今もあるの？」「同和教育、同和利権とは？」、全国千か所以上の路地を歩いた著者による部落問題を考えるはじめの1冊。
『境界を生きる～性と生のはざままで』 毎日新聞「境界を生きる」取材班 著 毎日新聞社	「性分化疾患」「性同一性障害」の問題を、当事者や医療関係者などに丁寧に取材したシリーズ企画を書籍としたもの。「境界を生きる」方たちを知って、理解する必要を強く感じます。
『マンガでわかる！統合失調症』 中村ユキ 著 日本評論社	統合失調症である当事者が、自分の病気を正しく理解することができ るコミックエッセイ。必要な情報が わかりやすく網羅されています。 

◎「障害者白書」「子ども白書」「文部科学白書」「犯罪被害者白書」「人権教育・啓発白書」「世界統計白書」など、様々な白書の最新刊も揃っています。ぜひご利用ください。



事業報告

ピックアップ

平成27年度高知県市町村人権教育・啓発担当者連絡協議会を開催しました

この連絡協議会は、人権が尊重される社会づくりを推進するため、県と市町村が情報交換などを通じ、人権施策の実施などにおいて連携できるようにすることを目的として開催しています。

県内3ブロックで開催した協議会には、全市町村の人権教育・啓発担当者が出席して、前半は、県、県教委及びセンターからそれぞれ本年度事業説明を行った後、質疑応答を行いました。

また、今年からは初めて法務省高知地方法務局の参加をいただき、国の人権施策に関する考え方など貴重な話をお伺いすることができました。

後半は、条例策定状況や高知県全体の課題、県の方向性の提起のあと、事前アンケートをもとにした班別協議が活発に行われました。

今年度の日程と参加人数等は以下のとおりです。

○5月11日（月）	東部会場（安田町文化センター）	……	11市町村	21名
○5月12日（火）	中部会場（土佐市立中央公民館）	……	17市町村	30名
○5月13日（水）	西部会場（四万十市立中央公民館）	……	6市町村	13名



事業説明（高知地方法務局人権擁護課課長）



会場風景



班別協議



各班ごとの発表



Information お知らせ

事業・イベント紹介

第42回「部落差別をなくする運動」強調旬間啓発事業

7月10日～20日は「部落差別をなくする運動」強調旬間です。県民の皆様の同和問題に対する理解と認識を深めていただくために次の催しを行います。

- 日 時：平成27年7月15日（水）13:00～16:00
- 会 場：県民文化ホール（オレンジ）
- 映 画：「ある精肉店のはなし」
- 講 演：『いのちを食べて いのちは生きる』
講師 絳嶺（はなぶさ） あや／映画監督
- 参 加 費：無料 ※手話通訳・要約筆記・託児あり



平成27年度 人権啓発研修ヒューマンパワー育成講座（管理職等）

- 定 員：100名
- 日 時：平成27年6月25日（木）15:00～17:00
- 会 場：プラザ八王子（香美市土佐山田町262-1）
- 基 調 講 演：「良くわかる“CSR（企業の社会的責任）と人権・労働”
～人を愛するコミュニケーション、夢とロマンのイキイキ組織～」
講師 水尾 順一／駿河台大学教授
- 事 例 発 表：「社員が主役、会社はステージ
～会社の発展と個人の幸せとの一致を目指して～」
講師：武埴 泰臣／（株）ファースト・コラボレーション代表取締役社長
- 主 催：高知県・（公財）高知県人権啓発センター
香美市企業等人権啓発連絡会・香南市企業等人権問題連絡協議会



じんけんライブラリー 利用案内

図書、視聴覚教材の貸し出しを無料で
行っていますのでぜひご利用ください

- 図書
1人5冊以内で、期間は2週間以内です。
- ビデオ・DVD
1人2巻以内で、期間は2週間以内です。
- パネル
1人3セット以内で、期間は1カ月以内です。
※ 直接来所できない場合は送付もいたします。
（送料は利用者のご負担となります）



ホール案内

各種研修会等にご利用ください

- 収容人員
270名（机を使用する場合は180名）
- 設備
放送設備、スクリーン、冷暖房
- その他
使用料、利用時間等についてはHPでご確認ください。

問い合わせ先

〒780-0870 高知市本町4丁目1番37号

公益財団法人 高知県人権啓発センター

E-mail : center@kochi-jinken.or.jp

TEL 088-821-4681 FAX 088-821-4440

HP : <http://www.kochi-jinken.or.jp>